

機械器具12 理学診療用器具
一般医療機器 温熱用パック(JMDNコード：37240010)

リハビリパックN2

【禁忌・禁止】

次のような症状を示す人又は診断を受けた人への使用は避けてください。

- ・心臓疾患のある人・有熱性疾患、化膿性疾患
- ・感染症、悪性腫瘍・急性炎症、急性疾患
- ・出血傾向の強いとき・極度の衰弱時
- ・知覚障害、皮膚疾患のある人
- ・アトピーなどによる知覚、皮膚過敏症
- ・妊婦、もしくは妊娠の可能性のある人
- ・乳幼児・その他医師が不適当と判断した人

【形状・構造及び原理等】

1) 概要

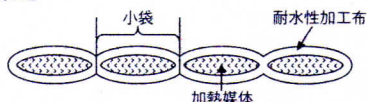
本品は耐水性加工布を小袋状に仕切って縫製し、この小袋内に加熱媒体を充填したパックである。本品の加熱媒体に水を含浸させ、湿式ホットパック装置で加温した後、タオル等に包み、患部に当てて消炎鎮痛処置（温熱治療）を行う。

2) 寸法

形状	特大	大	中	小	ネック
サイズ (mm)	620 × 400	560 × 290	370 × 290	370 × 150	600 × (165)(75)

(寸法は、±10mmの範囲内とする。)

3) 断面構造



4) 原理

湿式ホットパック装置で加温した本品の熱量を利用し、患部を温める。

【使用目的又は効果】

温熱効果

【使用方法等】

使用前の準備

本品に破損がないことを確認する。

使用中の操作

- ①ご購入後はじめて使用する場合には、必ずきれいな水または65℃までの湯に48時間以上浸してから使用してください。
- ②湿式ホットパック装置の温度を60℃～65℃に設定していただき、本品全体が浸かるように入れ、十分に加温してください。
- ③十分に加温された本品を湿式ホットパック装置より取り出して、内容物の流出がないか確認し、表面の水気を軽く拭き取ってからタオルで包んでください。
- ④背中、腰、臀部は覆う様に、手足は巻く様に、肩は背負う様に本品を当てて使用してください。その時、タオルからずれないように注意してください。
- ⑤タオルの枚数で温度調節し、通常は1回につき15～20分間治療部位を温めてください。

使用後の手順

治療が終了したら、本品を湿式ホットパック装置に戻してください。

【使用上の注意】

〔重要な基本的注意事項〕

- ①本品の使用により皮膚に過敏症状があらわれた場合は、使用を中止し医師の診察を受けてください。
- ②内容物が漏れているときは使用しないでください。
- ③本品を体の下に敷いて上から乗った状態で使用されますと内容物が出て火傷をする危険があります。
- ④湯以外（電子レンジなど）での加温はできません。
- ⑤加温させる湯に薬品を入れないでください。
- ⑥冷やして使用しないでください。

〔その他の注意〕

- ①治療部位の温度感覚が鈍化している知覚障害の方は、火傷を起し易いので十分に注意してください。
- ②バスタオルの枚数不足や直接皮膚に当てた使用は、火傷の危険があります。
- ③本品は記載の用途以外には使用しないでください。
- ④かゆみ、かぶれなどの症状が現れた場合は使用を中止してください。
- ⑤傷、かぶれのある部位には使用しないでください。
- ⑥湯や本品の温度が高くなりすぎないように注意してください。
- ⑦長時間使用していない場合には、表面に傷、劣化等がないことを確認し、正常に使用できることを確認してください。
- ⑧使い捨てカイロや治療部位および治療部位近くの金属類は外して使用してください。
- ⑨湿式ホットパック装置の水は週1回以上の交換をお勧めいたします。
- ⑩長期間使用しない場合も、湿式ホットパック装置内に浸けた状態で保管してください。
- ⑪保管方法が悪いと表面にカビが発生して布が弱くなったり、内容物が乾燥して使用できなくなることがあります。
- ⑫本品を湿式ホットパック装置より取り出す際には火傷をしないように吊り紐を引っ掛けて十分注意して取扱ってください。先端の鋭いものを使用したり、吊り紐を強く引っ張らないよう注意してください。
- ⑬本品は消耗品ですので以下の場合には新しいものと交換してください。
 - ・本品の破損
 - ・本品の硬化
 - ・内容物の減少や粘性の低下など

【保管方法及び有効期間等】

〔未使用品の保管方法〕

未使用の商品につきましては、直射日光、高温、極寒、多湿を避け、常温で保管してください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：乾卯栄養化学株式会社
住 所：大阪市中央区道修町1丁目3番7号
電 話 番 号：06-6231-3371
製 造 業 者：乾卯栄養化学株式会社 四条暖工場

取扱説明書を必ずご参照ください